

| | | | | | | | |
|------|--------------|------|----|------|---|------|------|
| 科目名 | 仏教社会福祉研究 [院] | | | | | 単位 | 2.0 |
| 担当教員 | 小島 恵昭 | | | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 開講期間 | 後期 | 配当年次 | 1 | 授業番号 | 2581 |

●授業のテーマ

仏教福祉が歴史の中で果たしてきた役割と意義、かつその今日的意義を問う。

●到達目標

「同朋和敬」を建学の理念とする本学が、なぜ社会福祉学部・人間福祉研究科を設置し、なぜ社会福祉・人間福祉を教育するのか、その理由を知ることを到達目標とします。

●学習内容(授業概要)

この授業科目は文学研究科の科目であることから、現代の社会福祉の混迷を解く鍵の一つとして、ながいあいだ人間における苦悩からの解放を課題としてきた仏教にみるることができる福祉思想を中心に考察する。この科目で取り上げる内容は、日本史における仏教教団や仏教者の思想や、それらの福祉思想に基づいて実践された救済事業で、よりいっそう具体的に理解させていく。基本的には講義形式で授業を進めるが、より人間的な宗教人の養成を目指す当該研究科の目的から可能な限り対話的な形で授業を進めていく。

●学習内容(授業計画)

1. 序論—建学の理念と社会福祉の理念
2. 仏教福祉の始まり—祇樹給孤独園
3. 仏教の人間観—平等
4. 縁起の思想—自立と共生
5. 慈悲の思想（1）—相対的慈悲から絶対的慈悲へ
6. 慈悲の思想（2）—自他不二と福田
7. 聖徳太子の四天王寺四箇院創建の伝承
8. 行基の民衆教化と福利事業
9. 源信の看取りの互助組織
10. 親鸞の他力救済と共同連帯
11. 日蓮の共（代）受苦と国家福祉
12. 死への福祉（1）—生老病死
13. 死への福祉（2）—ビハーラ
14. いのちの物質化・私有化の危機と仏教の生命観
15. 結論

●準備学習・事後学習の内容

毎回資料を配布しますので、予め下調べをすること。事後学習として毎回授業のまとめと感想を書いてください。

●成績評価方法・基準

毎回授業のまとめと感想 30%。学期末レポート試験 70%。

- テキスト（必携）
特になし。

- 参考文献／その他

日本仏教社会福祉学会編『仏教社会福祉辞典』法藏館；¥3,675
長谷川匡俊著『宗教福祉論』医歯薬出版株式会社；絶版

- 履修上の注意

毎回資料を配布しますので、必ずファイルに綴じてください。